

令和2年度 南が丘小学校の学校自己評価

1 前期（6月～10月）の取組

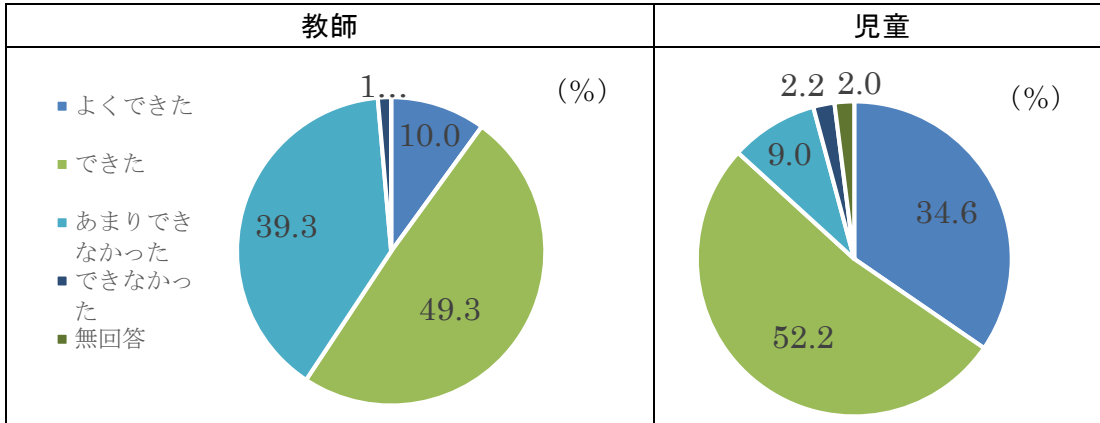
(1) めざす子どもの姿

I 学び合い ともに高まり合う子	①進んで学習に取り組む子	②聴き合い伝え合える子
II 自分や身近な人を大切にする子	①進んであいさつをする子	②気持ちを考え行動できる子
III 安全と健康に気をつける子	①きまりを守る子	②ものを大切にする子

(2) 教師による観察及び児童質問調査の結果と分析

I 学び合い ともに高まり合う子

① 進んで学習に取り組む子



◎ 「あまりできなかった」「できなかった」主な理由

- 遊んでいて授業の準備をしなかったから。(27人)
- 表現することが、恥ずかしいから。(26人)
- 表現して間違えたらいやだから。(15人)
- 自分の考えに自信がないから。(13人)

【取組前の姿・6月】

- 約2か月遅れの新学期の始まりで子どもたちのつながりが十分とはいえず、友だちの意見や考えに関心が向いていない児童がみられた。
- 休校中であつたにもかかわらず知識面については予想していた以上に充実している子が多かつた。しかし、思考力・判断力・表現力が不足している傾向がみられた。
- 昨年度の体力テストから全身持久力が弱いという結果であつたが、休校の影響で、さらにその傾向が強くなつた。

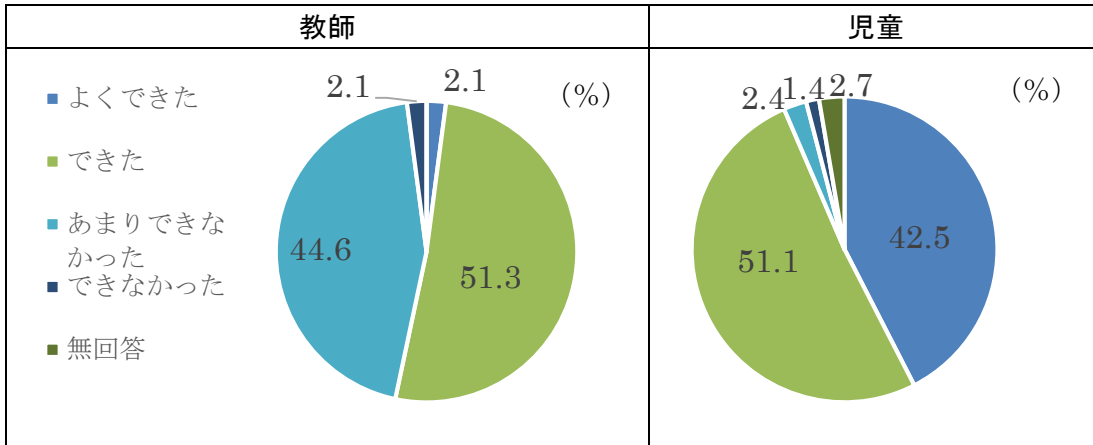
【達成状況の分析・考察】

- 子どもたちは、友だちの意見や考えに関心をむけられるようになってきた。
- 思考力・判断力・表現力の点では、個人差が大きく課題が残つた。
- 授業の準備をせずに遊びに行き、授業開始のチャイム後に準備をする児童がみられた。
- 外遊びをしている児童は昨年度よりも増えてきた。

【取組】

- 全員が授業に参加できるように児童の様子を正確に把握し個に応じた支援を行った。
- 教員と児童がめざす姿を共有し、6年間を見通した具体的な目標・評価基準を教室掲示等で示した。
- どの子も思考力・判断力・表現力をつけ、伸ばすことができるようにペア・グループによる学習の場を設定した。
- 教員から子どもへの評価や子ども同士の気づきを伝える機会を積極的に設定した。
- 全学年、体力テストの20mシャトルランを実施した。また、持久力向上につながる運動(鬼遊びなど)を体育の時間に取り入れたり、外遊びを呼びかけたりした。

② 聴き合い伝え合える子



【取組前の姿・6月】

○ペアやグループ学習では、自分の考えを伝えることができる児童が多かった。
 ○友だちの意見や考えに関心が向かず、話を聴いたり、聴き出したりする姿はあまり見られなかった。

【達成状況の分析・考察】

○グループの中で話せる児童が話を進め、話せない児童はずっと黙っていることがあった。
 ○子どもたちは友だちの考えに関心を向けられるようになってきた。
 ○友だちの考えを引き出し、聴き合うという点では課題が残った。
 ○「自分の考えを表現する」ことに対して「自信がない」「間違えることがいや」と回答する児童が多かった。

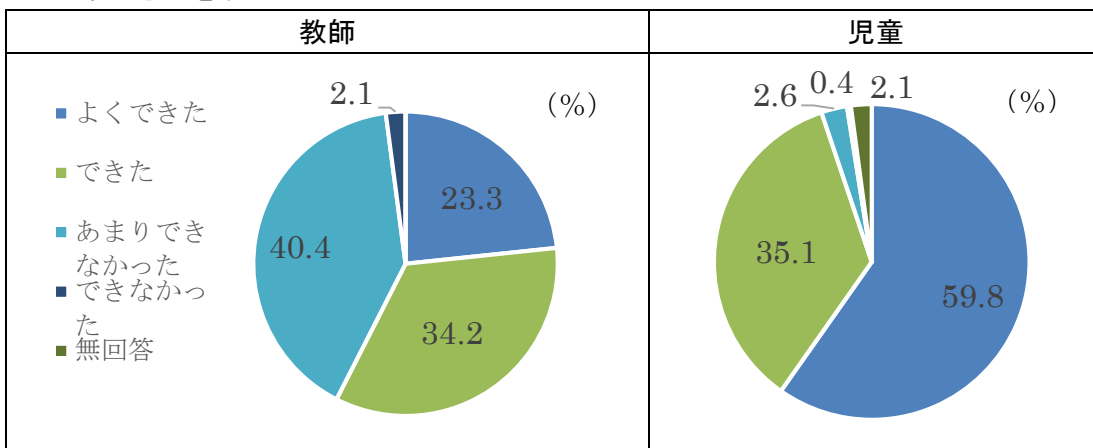


【取組】

○ 児童の様子を正確に把握し、個に応じた支援を行った。
 ○ ペア・グループによる学習の場を設定した。
 ○ 聴く力を大切にした授業づくりを行った。
 ○ 語彙力を高める取組を行った。

Ⅱ 自分や身近な人を大切にする子

① 進んであいさつをする子



◎「あまりできなかった」「できなかった」主な理由

- あいさつすることが恥ずかしいから。(6人)

【取組前の姿・6月】

○以前に比べるとあいさつをする児童は増えてきた。
○朝から元気よくあいさつができる児童は多くなかった。

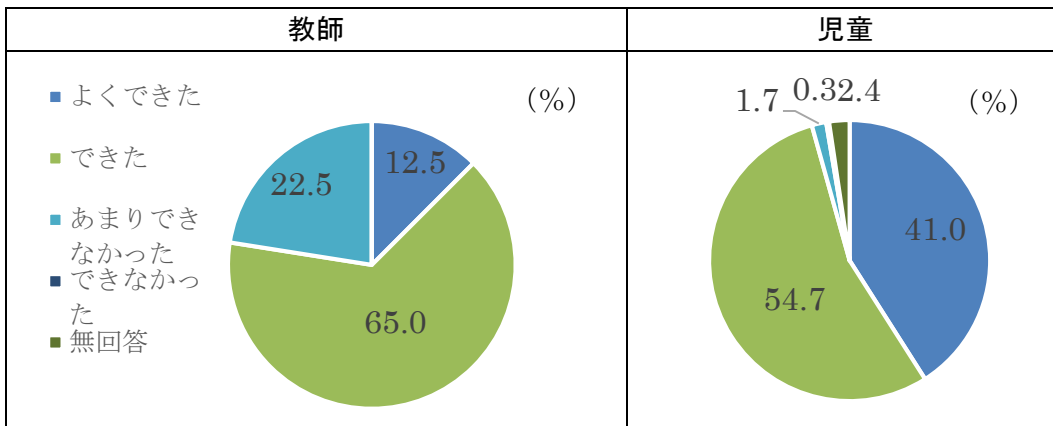
【達成状況の分析・考察】

○あいさつをするのを恥ずかしいと感じている児童が何人かいた。
○あいさつされたら返すが、自分からあいさつをする児童は多くなかった。

【取組】

○あいさつ週間などの挨拶を意識する取組を定期的に行った。
○あいさつを習慣化できるように家庭への協力を求めた。

② 気持ちを考え行動できる子



【取組前の姿・6月】

○楽しく学校生活を送っている児童が多かった。
○人間関係等に苦慮し、自己肯定感が低い児童もいた。
○他者を思いやる気持ちを持っているが、その気持ちを言動に表すことができない児童もいた。
○コミュニケーション不足から自分の気持ちを素直に伝えられずトラブルになることがあった。

【達成状況の分析・考察】

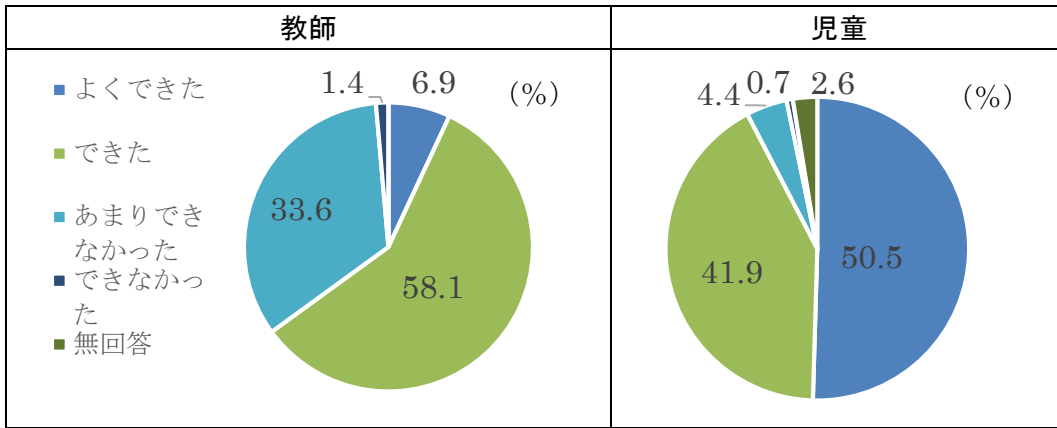
○課題を他人任せであったり、人任せであったりして自分に引き寄せて考えられない児童がいた。
○言葉の端々が厳しい時があった。(マスクをしていない友だちに対してなど)
○自分の気持ちを優先してしまった。
○自分の思いをうまく伝えられず、トラブルになることがあった。
○ふわふわ言葉(言われると気持ちがふわふわしてうれしくなる言葉)を積極的に使っていた。

【取組】

○思いやりの心を育む学習や活動を行い、誰もが安心してすごすることができる学級づくりを行った。
○日々の課題を学級会等で取り上げたり、学級活動を行ったりする中でよりよく生活するための思考力・行動力を養った。

Ⅲ 安全と健康に気をつける子

① きまりを守る子



◎「あまりできなかった」「できなかった」主な理由

- 廊下を走ってしまったから。(41人)
- 遊んだりさわいだりしたから。(11人)

【取組前の姿・6月】

○校舎内で走ったり、悪ふざけしたりしないという生活のきまりに対する規範意識が弱い児童が多くみられた。

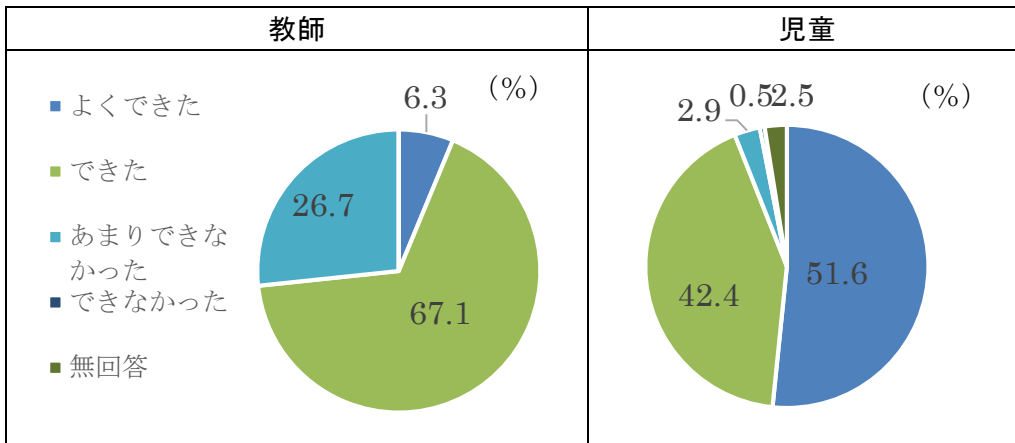
【達成状況の分析・考察】

○教師の姿を見ると歩いたり悪ふざけをやめたりするが、姿がなくなると走り出す児童もいた。規範意識は依然として弱い児童が多くみられた。

【取組】

○自分たちの課題としてとらえ、解決するように児童会や委員会での活動を指導した。

②ものを大切にする子



【取組前の姿・6月】

○給食の残食が多く、野菜の和え物や酢の物などのメニューを食べきれずに残してしまう児童が多かった。

○しっかりと掃除ができるようになってきたが、自分たちで考えて進めることが苦手な児童が多かった。

○持ち物への記名がない児童が多かった。

【達成状況の分析・考察】

○給食ふりかえりカードの活用により、残食をなくそうという意識づけを図ることができた。

○清掃の進め方を提示することで、自分たちで考えて取り組めるようになった。

○持ち物への記名がない児童はまだ多い。

【取組】

- 給食振り返りカードを実施し、残さず食べようとする意識を育むよう努めた。
- 自分たちで進んで掃除に取り組もうとする姿につなげるため掃除の進め方の提示をした。
- 学級での指導に加えて通信などで家庭への協力を働きかけていった。

2 後期(11月～3月)取組

前期の取組結果を踏まえ、後期は次のように取組を進めている。

(1) 取組内容

I 学び合い ともに高まり合う子

①進んで学習に取り組む子

- 自分の考えをもつ時間をしっかりと確保した上で、場面や目的を明確にしたペア・グループによる学習の場を設定する。
- 体力テストの20mシャトルラン2回目に加え、全校で鬼ごっこ週間を実施する。引き続き、持久力向上につながる運動(鬼遊びなど)を体育の時間に積極的に取り入れたり、外遊びの呼びかけを行ったりする。

②聴き合い伝え合える子

- 友だちの考えを引き出す対話の仕方を示す。
- 教科書の「言葉の宝箱」などを活用して語彙力を高める取組を行う。
- 「まちがってもいい」と思えるとともに「分からない」と言える学級づくりを進める。

II 自分や身近な人を大切にする子

①進んであいさつをする子

- 毎週木曜日にあいさつ運動を行う。
- 「学年対抗あいさつ運動」を行う。

②気持ちを考え行動できる子

- 引き続き、思いやりの心を育む学習を行う。
- 学年のまとめや次の学年にむけた活動を通してよりよく生活するための思考力・行動力を養う。

III 安全と健康に気をつける子

①きまりを守る子

- 児童会や委員会での活動を通して行動変容を促す。
- 教員による見守り、声かけを続けていく。

②ものを大切にする子

- 2回目の給食振り返りカードの実施に加え、給食委員会で呼びかけや給食に関するクイズやイベントを企画し、残食を無くそうとする意識を育む。
- 掃除の進め方について、より具体的に示すことで、自分たちで進んで掃除に取り組もうとする姿を引き出す。
- 学級での指導に加えて通信などで家庭への協力を働きかけていく。

(2) 中間確認と3学期取組

2学期の終業式及び3学期の始業式において、学校長が児童に対し「6つのめざす子どもの姿」についての児童の振り返りを促し、児童の課題意識と取組意欲を喚起した。さらに各学級において各担任が具体的な成果と課題を話し、3学期からの行動化を促した。

(3) 情報発信

本取組については、学校だよりや学校ホームページで情報発信し、保護者・地域の皆様にご理解とご協力をお願いした。2月号の学校だよりでは、子どもたちが振り返りを記載し、持ち帰ることで家庭への啓発の機会をもった。

(4) 評価

2月中旬、次の評価を行った。

- ① 教員の観察による評価
- ② 児童への質問紙調査

(5) 結果の分析・考察

後期の取組結果の分析・考察を行い、今年度の総括をする。

(6) 本年度の総括

修了式において学校長が年間を総括し成果と課題について話し、来年度にはさらなる成長をめざすことを児童によびかける。これを受け担任からも今年度の取組の総括を具体的に話し来年度につなげる。

